



**第2四半期決算概要**  
**通期業績の見通し**  
**製品群別の事業環境と戦略**  
**今後の事業展望**  
**会社の概要**

**2009年9月期第2四半期決算説明会**  
**株式会社 ピクセラ**

# 2009年9月期 第2四半期 当第2四半期の業績(連結)

(単位:百万円)

	08年9月期	09年9月期	対前期比増減	
	前第2四半期	当第2四半期期	金額	比率
売上高	3,480	2,289	△ 1,191	-34.2%
製品売上	2,948	1,803	△ 1,145	-38.8%
SWロイヤリティ	209	214	5	2.4%
受託開発	192	145	△ 47	-24.5%
その他	130	126	△ 4	-3.0%
売上総利益	154	143	△ 11	-7.1%
販管費	1,308	930	△ 378	-28.9%
営業利益	△ 1,154	△ 786	368	-
経常利益	△ 1,390	△ 960	430	-
当期純利益	△ 1,366	△ 909	457	-



# 2009年9月期 第2四半期 当第2四半期の業績(単体)

(単位:百万円)

	08年9月期	09年9月期	対前期比増減	
	前第2四半期	当第2四半期	金額	比率
売上高	3,246	2,134	△ 1,112	-34.3%
製品売上	2,948	1,803	△ 1,145	-38.8%
SWロイヤリティ	209	214	5	2.2%
受託開発	88	116	28	31.6%
売上総利益	87	97	10	12.3%
販管費	1,076	759	△ 316	-29.4%
営業利益	△ 989	△ 661	328	-
経常利益	△ 1,030	△ 1,066	△ 36	-
当期純利益	△ 1,288	△ 776	511	-



# 2009年9月期 第2四半期 決算の概要

## 売上高

### ◆TVキャプチャ市場

PC向けTVキャプチャは、PC販売動向において低価格なミニノート市場が盛り上がったものの、当社製品が主に搭載されているデスクトップPCは振るわず、売上・利益共に減収となりました。

### ◆デジタルAV家電市場

デジタルAV家電は、組み込み用地上デジタルボードが、大手家電メーカーの液晶テレビに採用、発売されました。

## 営業利益

### ◆合理化の実施・粗利率の改善

売上総利益は、合理化の実施により、開発に係る労務費・開発費の負担が軽減され、粗利率の改善に繋がりました。この結果、営業損失は大幅に縮小となりました。

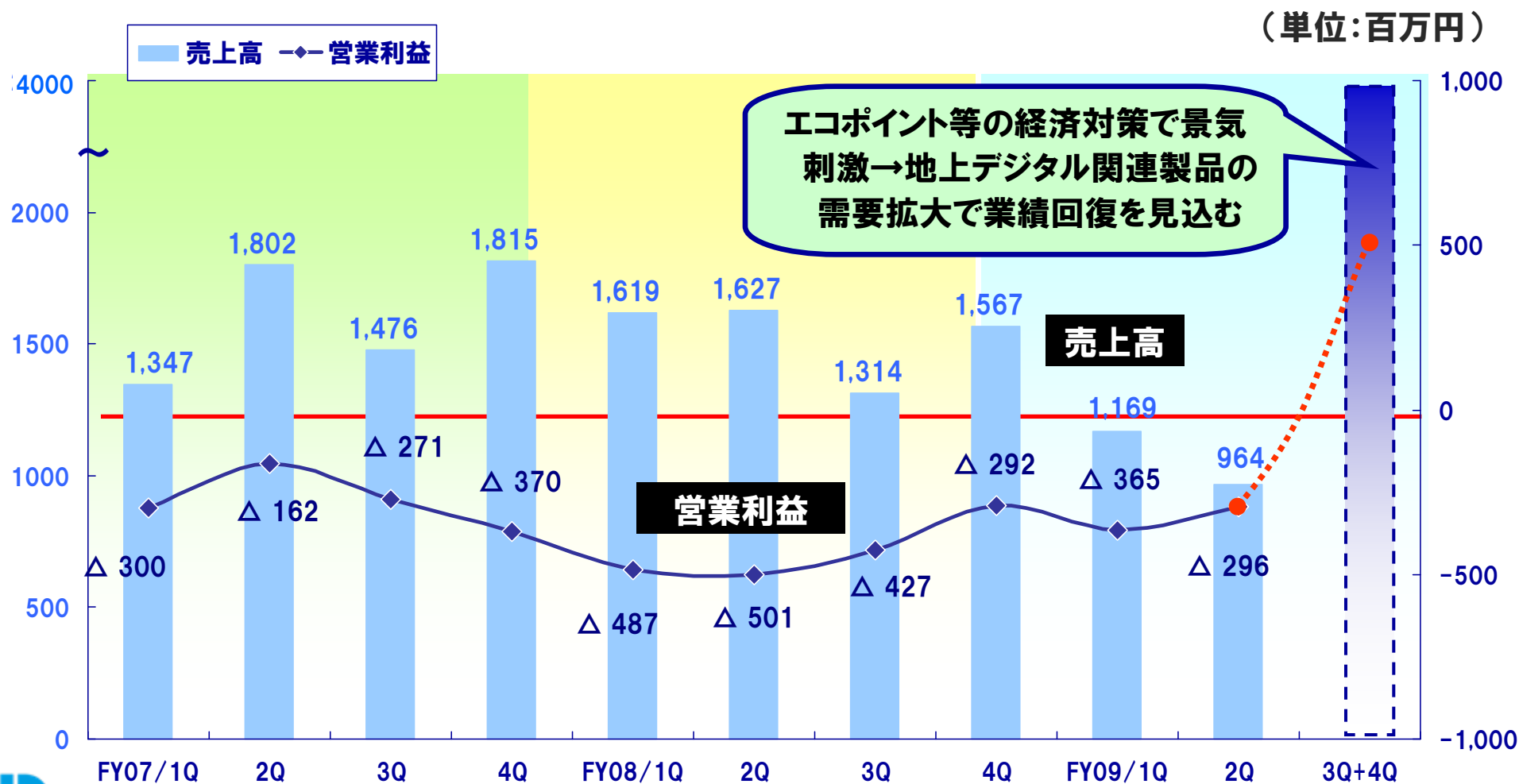
## 当期利益

### ◆特別損失の計上

関連会社の整理関連費用	120百万円	・・・中国子会社の清算、シンセシスの売却損等
合理化の実施に伴う費用	144百万円	・・・事務所移転・固定資産除却・退職金等
関連会社の債務保証	19百万円	・・・債務保証見込み額を計上



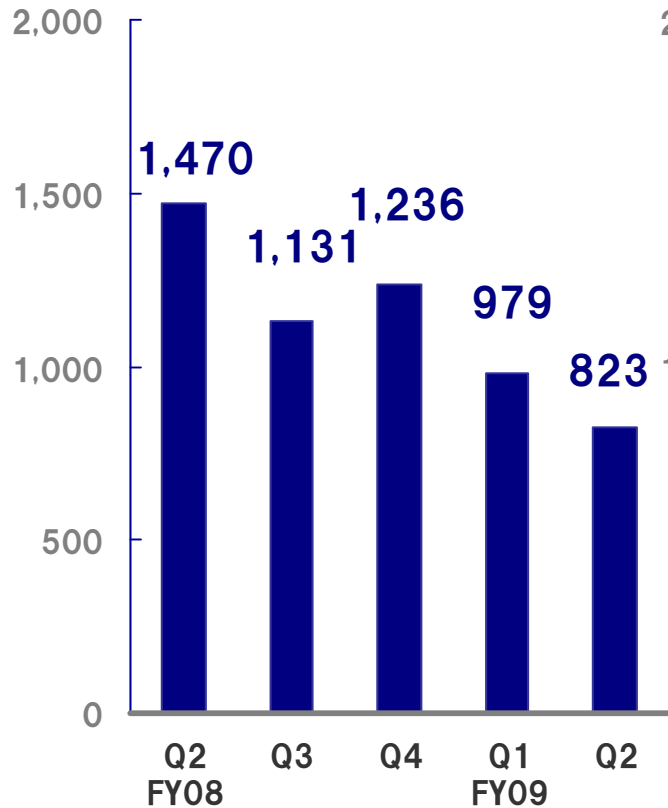
# 2009年9月期 第2四半期 売上高・営業利益の四半期推移(単体)



# 2009年9月期 第2四半期 製品群別売上高の四半期推移(単体)

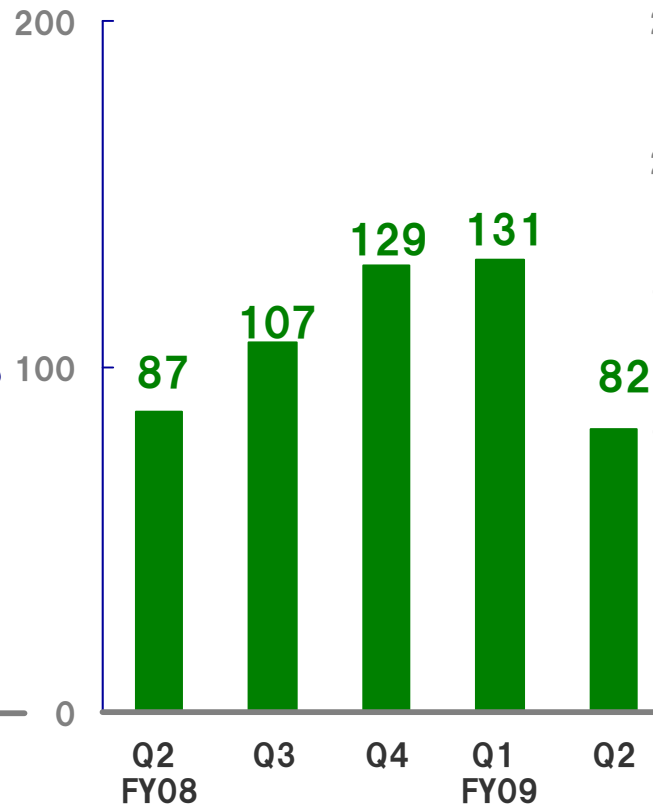
## 製品売上

(単位:百万円)



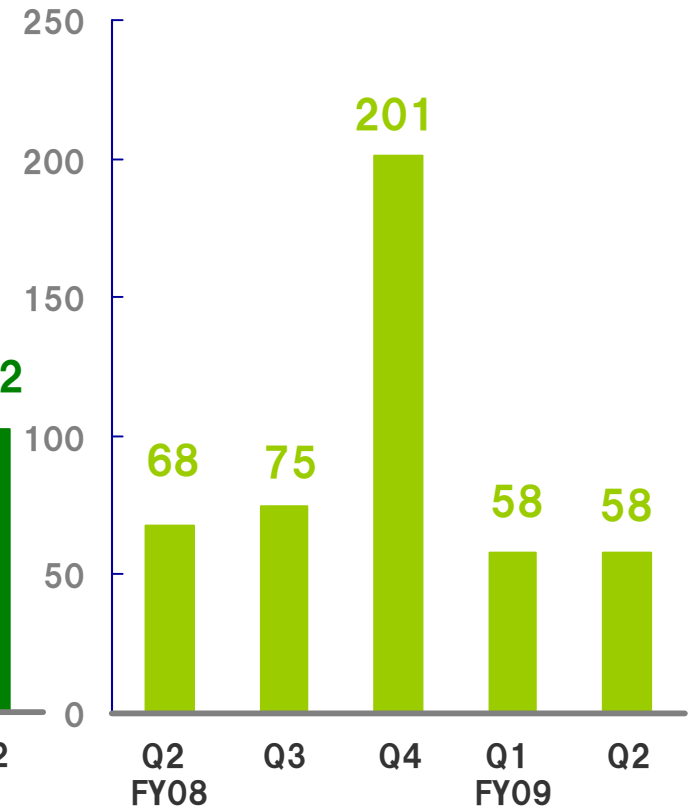
## ソフトウェアロイヤリティ

(単位:百万円)



## 受託開発

(単位:百万円)

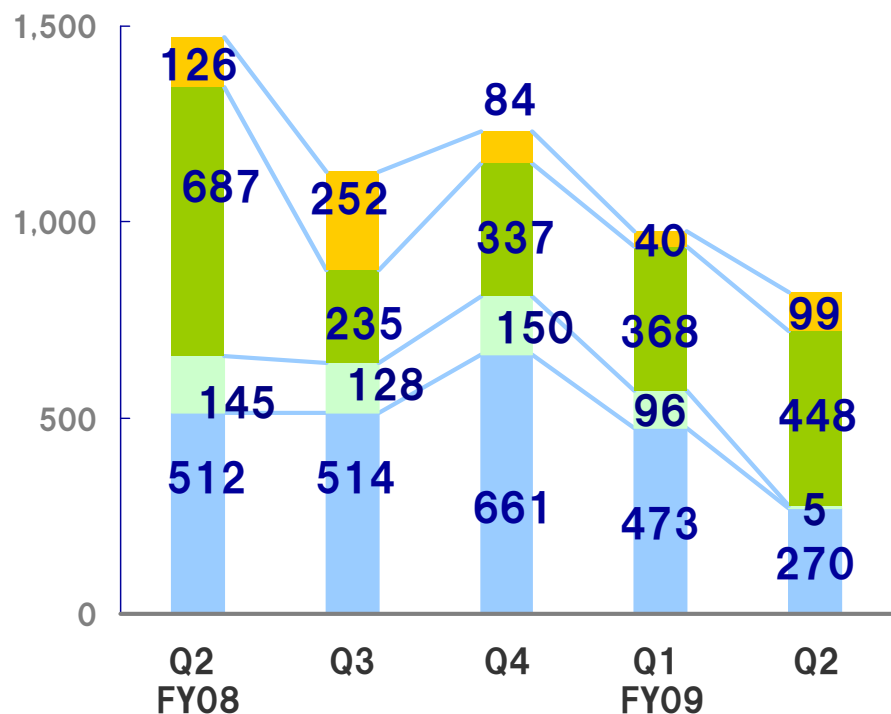


# 2009年9月期 第2四半期 製品群別売上高の種類別四半期推移(単体)

## 製品売上の種類別売上高

(単位:百万円)

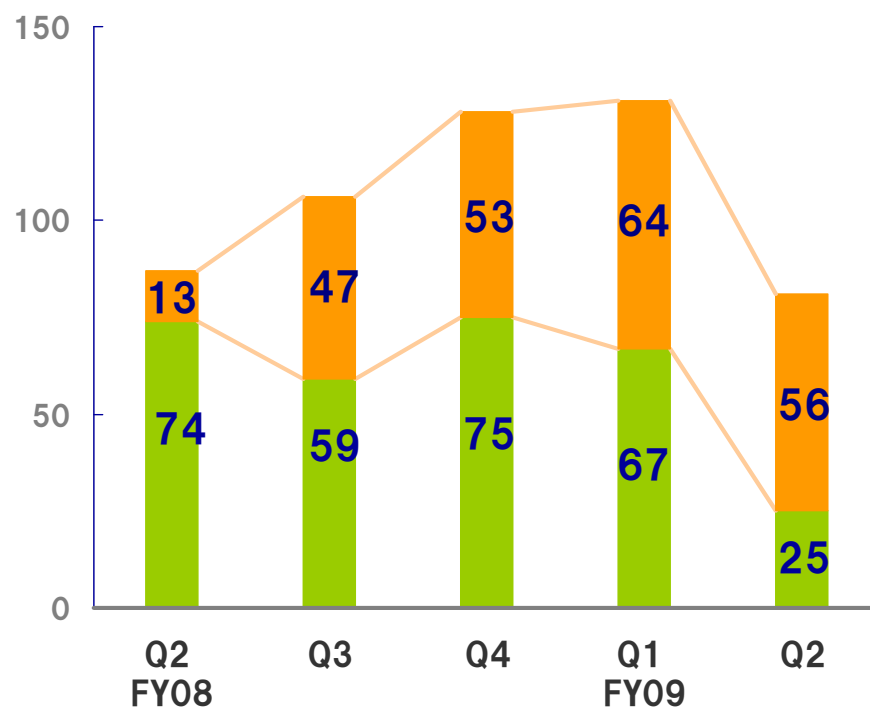
■ キャプチャー ■ チップ ■ デジタルAV ■ その他



## ソフトウェアロイヤルティの種類別売上高

(単位:百万円)

■ TVアプリ ■ AVアプリ



# 2009年9月期 第2四半期 合理化による経費削減実績と見通し(単体)

## 合理化の実施時期・見通し

### 【上期の主な施策】

	実施時期	内容
◆役員報酬の削減	08年7月	代表取締役50% 他40%
◆希望退職による人件費の削減	08年12月～	34名退職、特別損失発生
◆不採算事業の撤退	09年2月	WEB販売の縮小等
◆人件費の削減	08年12月～	約2割の削減
◆本社事務所の集約・東京支社の移転	09年4月	月平均6百万強の削減
◆派遣・開発委託の中止・縮小	08年9月	派遣の削減・開発費縮小

### ※主な費目の削減効果

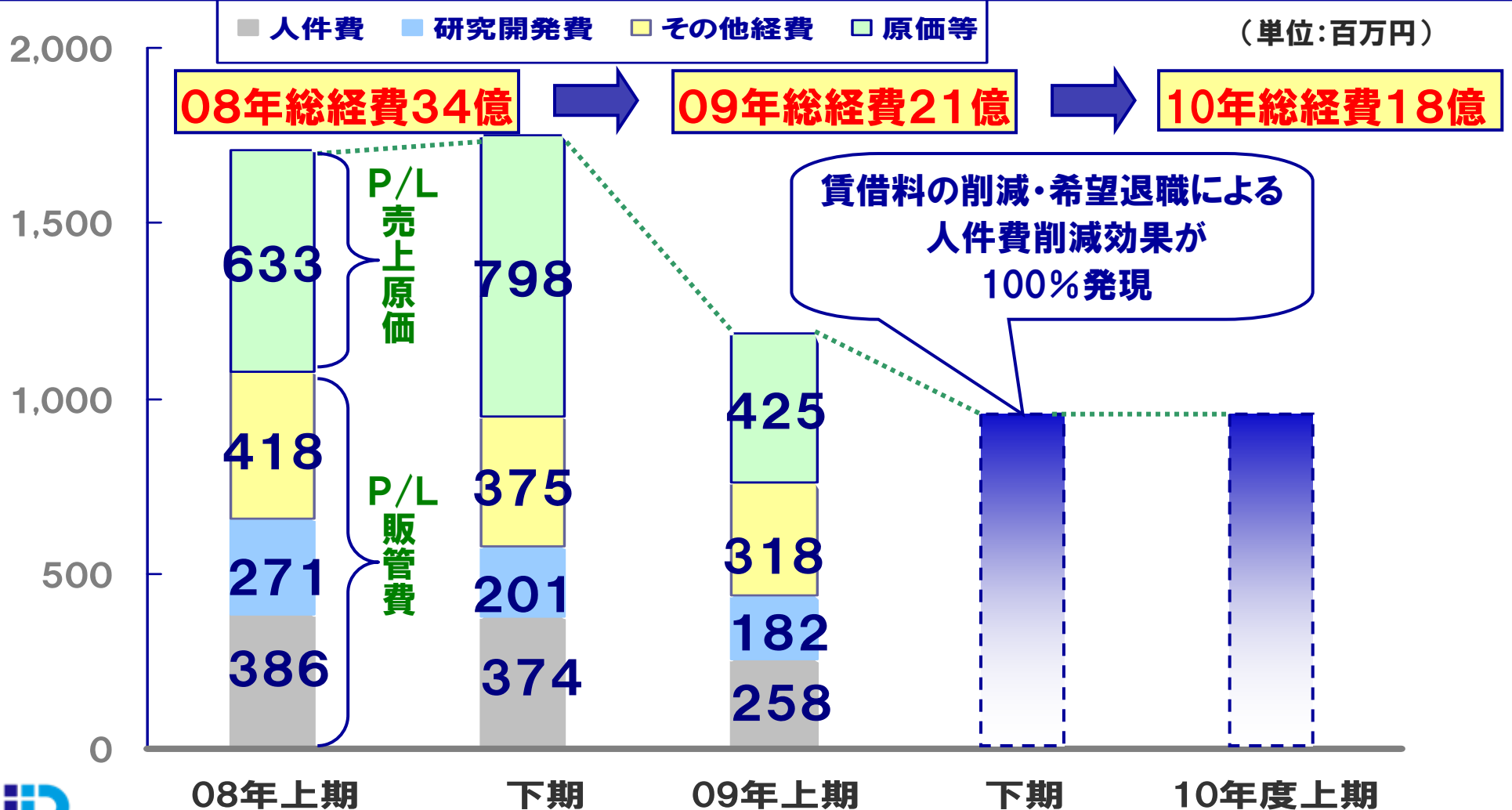
単位:百万円

08年度		→	09年度		→	10年度	
人件費・報酬	1,917		1,400	1,400			
賃借料	201	180	125				
外部委託費	509	70	55				



# 2009年9月期 第2四半期 合理化による経費の削減実績(単体)

## 経費の推移と見通し





PIXELA CORPORATION

**第2四半期決算概要**

**通期業績の見通し**

**製品群別の事業環境と戦略**

**今後の事業展望**

**会社の概要**



# 2009年9月期 通期見通し 通期業績の見通し(連結)

(単位:百万円)

	09年9月期 1Q	09年9月期 2Q	09年9月期 累計	09年9月期 当期(予定)	対前期比増減		08年9月期 前期
					金額	比率	
売上高	1,211	1,077	2,289	6,228	△ 313	-4.8%	6,541
営業利益	△ 436	△ 350	△ 786	△ 286	1,616	-	△ 1,902
経常利益	△ 572	△ 388	△ 960	△ 370	2,035	-	△ 2,405
当期純利益	△ 579	△ 329	△ 909	△ 609	1,783	-	△ 2,392

減収ではあるものの、前述の合理化の実施等により、第4四半期より黒字化の見込み。



# 2009年9月期 通期見通し 通期業績の見通し(単体)

(単位:百万円)

	09年9月期 1Q	09年9月期 2Q	09年9月期 当中間期	09年9月期 当期(予定)	対前期比増減		08年9月期 前期
					金額	比率	
売上高	1,169	964	2,134	6,112	15	-0.2%	6,127
営業利益	△ 365	△ 296	△ 661	△ 146	1,563	-	△ 1,709
経常利益	△ 737	△ 328	△ 1,066	△ 228	1,615	-	△ 1,843
当期純利益	△ 530	△ 246	△ 776	△ 439	2,065	-	△ 2,504

配当につきましては、誠に遺憾ながら無配となる予想です。早期復配を目指します。



## 2009年9月期 第2四半期 ご参考:09年4月度損益状況(単体)

	第2四半期累計	4月実績	通期見通し
売上高	2,134	402	6,112
営業利益	△ 661	△ 38	△ 146
経常利益	△ 1,066	△ 41	△ 228
当期利益	△ 776	△ 45	△ 439



PIXELA CORPORATION

第2四半期決算概要

通期業績の見通し

**製品群別の事業環境と戦略**

今後の事業展望

会社の概要



# 2009年9月期第第2四半期 事業環境と戦略 製品群別基本戦略について

## デジタルAV家電

### ◆2011年のアナログ停波に向けた需要の刈り取り

組込ボード・TV・・・大手メーカーへの供給で、受信ボードの低コスト化を目指す。  
また、エコポイント特需の恩恵を受けるべく、新商品の開発を急ぐ。

チューナー・・・総務省の特需、BtoB、電材ルートや大手小売店等への販路拡大で需要刈り取りへ。



## ソフトウェア

### ◆シェア拡大・新技術への対応

TV視聴アプリ・・・キャプチャの出荷にほぼ連動。付加価値の追加でシェア拡大を狙う。

動画像編集アプリ・・・AVCHD等の新技術やYouTube等への連携で、今期より日本ビクター製の「Everio」シリーズに採用。他社への展開を図る。



## TVキャプチャ(OEM)

### ◆搭載機種種の拡大

TVの低価格化による地上デジタルTVパソコン需要減の中、搭載機種種の拡大を図り出荷減を補う。

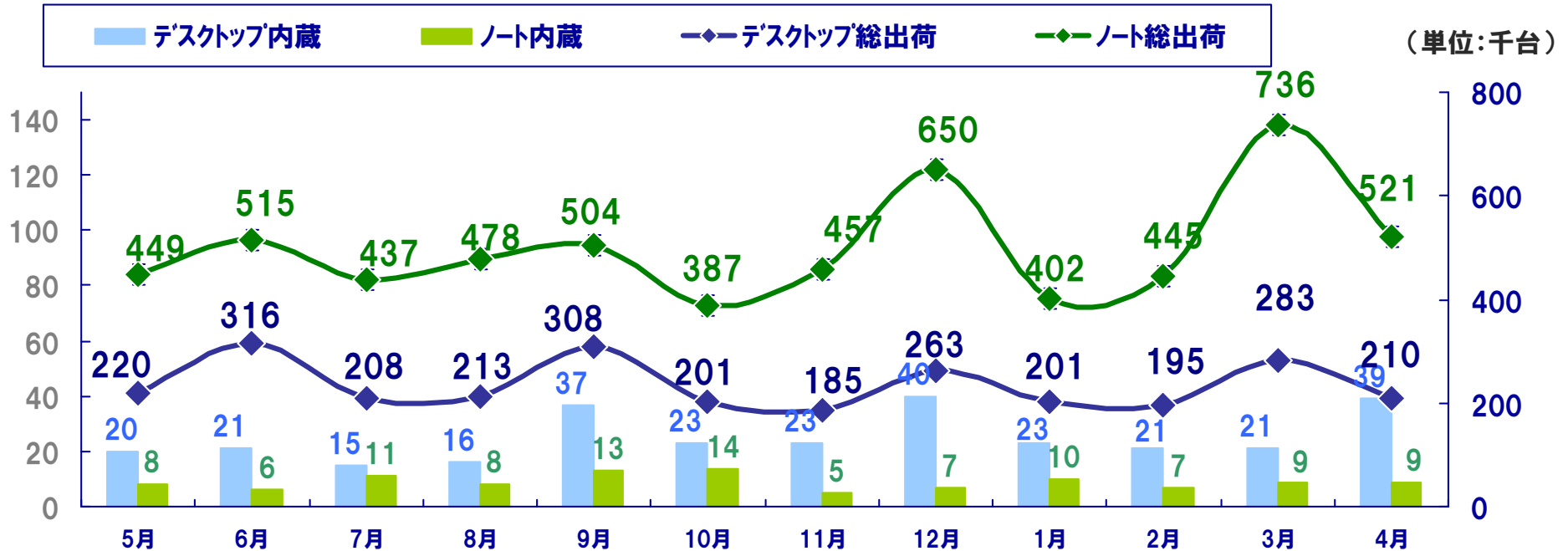
## TVキャプチャ(リテール)

### ◆競争力の高い製品の開発・販売に特化

他社にはない技術力で製品の差別化を図り、競争力の強い製品の開発に特化する。



# 2009年9月期第2四半期 TVキャプチャ事業 国内PCとTVチューナー内蔵PCの市場環境



<JEITA 09.4.統計より。調査対象は13社。販売上位メーカーのうちDell社、日本HP社は本統計に参加していない。>

▼**コンシューマ市場は廉価なネットブックが出荷を押し上げたものの、通常のノート・デスクトップ型は前年割れが続いた。新規採用メーカーがあったものの、既存取引先の減少を補えず。**

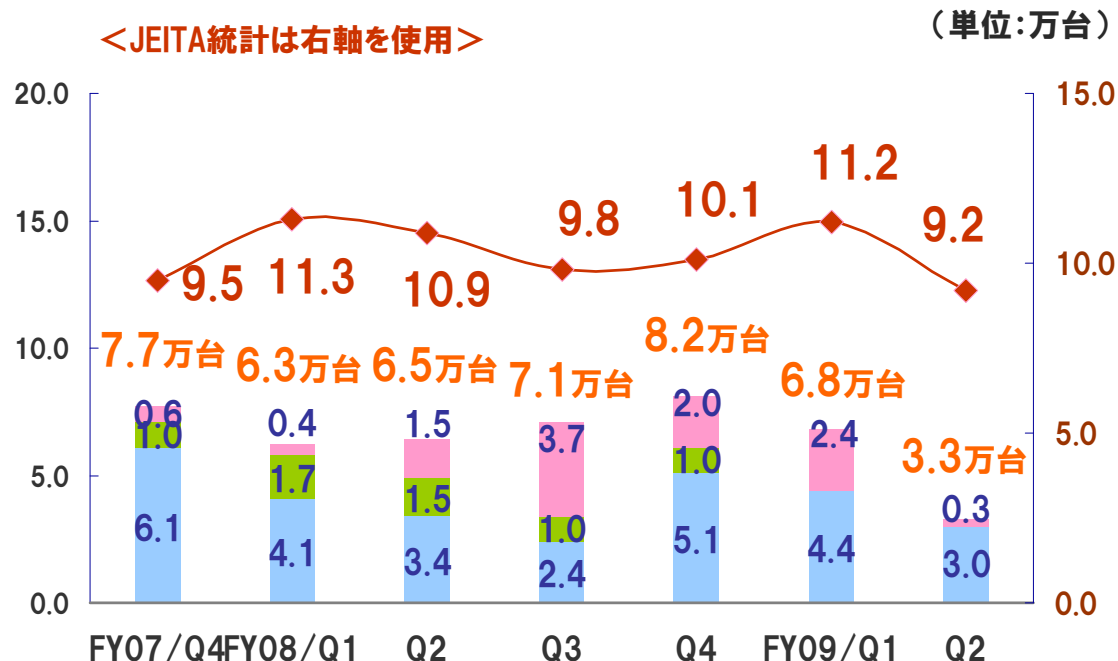
→**ノートPCのTVチューナー内蔵モデルは減少傾向。省スペースデスクトップへの搭載を強化することでノート型の需要減を補う。**



# 2009年9月期第2四半期 TVキャプチャ事業 当社キャプチャー製品の出荷台数の推移

## 種類別キャプチャー出荷台数の四半期推移

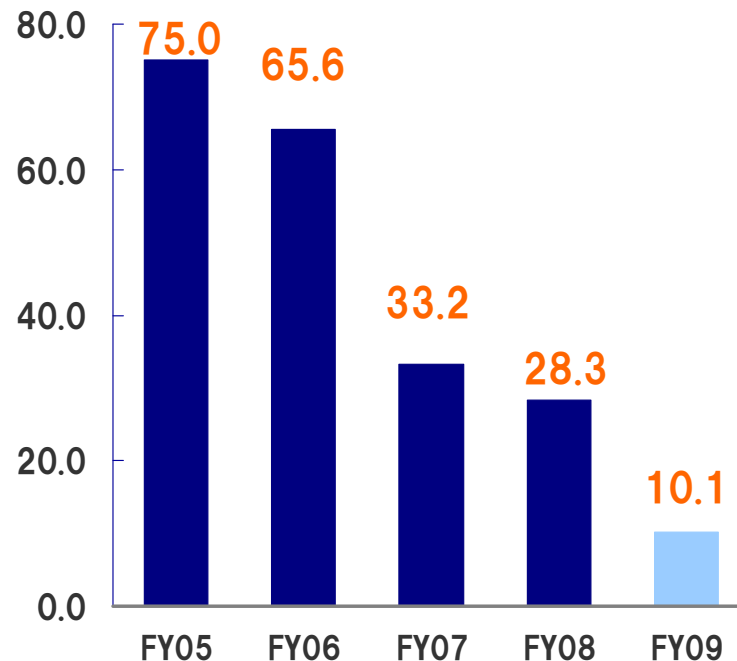
■ デスクトップ ■ ノート ■ ノート内蔵ワンセグ ◆ JEITA統計(地デジ+ワンセグ内蔵)



※FY09よりノート向け出荷台数については、デスク向け出荷に含めて集計しております。

## キャプチャー出荷総数の年度推移

(単位:万台)



※FY09は中間期までの台数です。

▶ 新規顧客を獲得したものの、従来顧客の最量販機種への世代交代による数量激減により、前年を下回る結果に。世代交代後の新機種の需要立ち上がりは第3四半期からを見込む。



# 2009年9月期第2四半期 TVキャプチャ事業 OEM供給先

## 当社OEM提供実績

主なOEM出荷先	デジタル(デスク)	デジタル(ノート)	ワンセグ	視聴アプリ提供
富士通	●	●		●
日本HP	●			●
ソニー				●
シャープ			●	●
SOTEC	●			●
Acer	●			●
Gateway	●			●
工人舎			●	●

➤HP、SOTEC向けの出荷は微増












➤上記のほか、ショップブランドPCへの出荷も開始。(ユニットコム、MCJ)

➤ソフトウェアのみの提供ながらソニーの伸びは著しい



# 2009年9月期第2四半期 TVキャプチャ事業 PCキャプチャボードの製品展開

OEM向け製品開発

		製品の特徴	
3波Wチューナー AVCREC対応			AVCHD方式でのリアルタイムトランスコードで画質を落とさず長時間録画が可能に。
3波Wチューナー	 		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地上・BS・CSの3波に対応</li> <li>◆市販では唯一のWチューナー搭載</li> <li>◆OEMでの先行投資により競争力を確保</li> </ul>
3波チューナー	 		<p>Macモデル</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>◆地上・BS・CSの3波に対応</li> <li>◆Macに対応(6月出荷開始)</li> <li>◆MacモデルはUSB外付けタイプ</li> </ul>
1波Wチューナー			<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地上波Wチューナーを搭載</li> <li>◆ミニカードタイプのため、ノートPCだけでなく、省スペースデスクトップにも採用</li> </ul>
シングルチューナー	 		<p>Macモデル</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>◆地上波チューナーを搭載</li> <li>◆OEMはミニカード、PCIモデルを用意 リテールはPCIとUSB(Mac)を用意</li> </ul>

**OEMは搭載機種種の拡大、リテールは競争力の強い商品開発に専念し、経営の効率化を図る。**



# 2009年9月期中間期 ソフトウェアロイヤルティ市場 AVアプリのシェア拡大へむけて

デジタルカメラ向けアプリは市場の成熟による価格競争により提供アプリの単価が大幅に下落

高成長分野への  
進出

高画質化が進み、成長期にあるビデオカメラ市場で、付加価値の高い製品の提案に注力

シェア拡大に向けた  
施策

## ◆新技術への対応

・長時間録画に対応した  
AVCHD規格誕生  
→規格に対応した編集ソフトを開発。

## ◆新しい利用シーンに対応

・YouTube・ニコニコ動画に対応した  
フォーマットで簡単に動画を投稿  
・iPodへの転送対応 等

これらの結果・・・

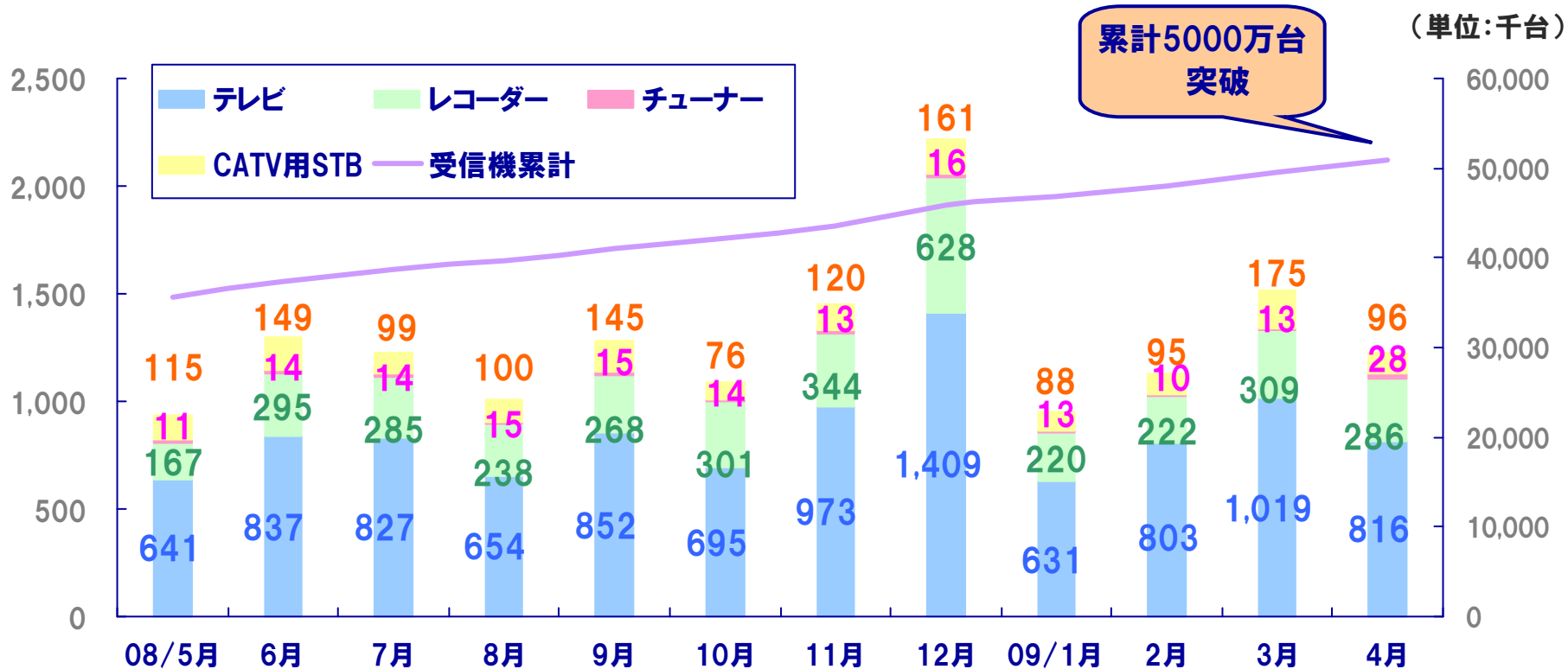
## 09年9月期 新規採用実績

09年1月 AVCHD規格の映像に対応した「Everio MediaBrowser™」が日本ビクター製ビデオカメラ「Everio」シリーズに映像編集アプリとして同梱開始。

技術力を活かせる高成長分野に参入し、新規顧客の獲得を進める。



# 2009年9月期第2四半期 デジタルAV家電市場 国内地上デジタル放送受信機の出荷状況



<JEITA 08.5統計より>

→09年4月末時点で普及台数約5,000万台

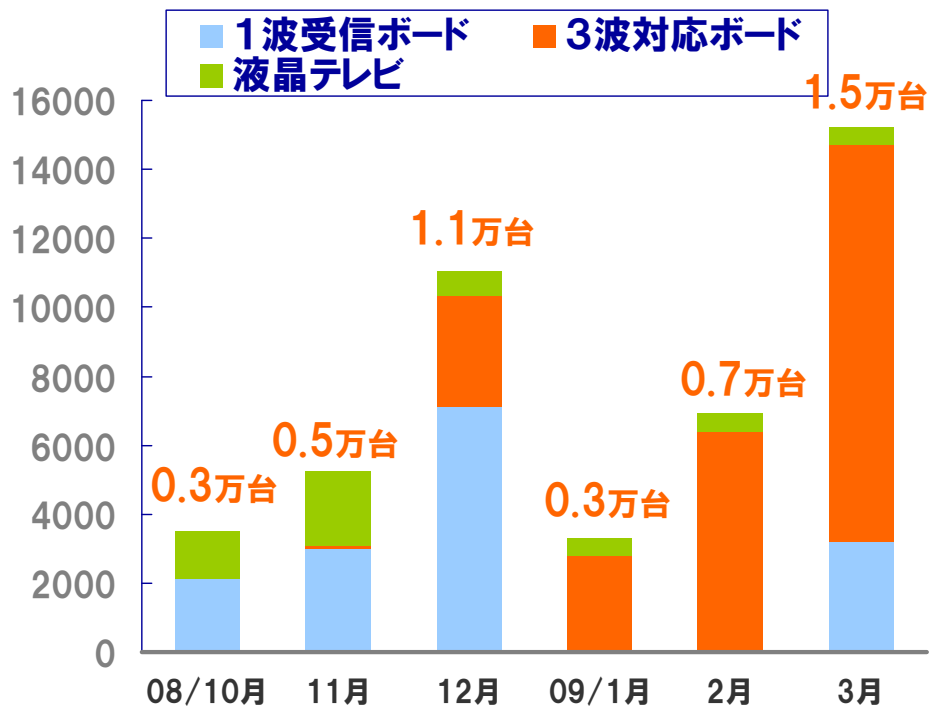
→チューナーは停波に向けて下期から急激な拡大を予想。

→TVの出荷台数は前年同月比110%以上で推移。低価格化に加え、エコポイント・定額給付金などの景気刺激策により、引き続き好調に推移するものと思われる。⇒組込ボードの需要拡大

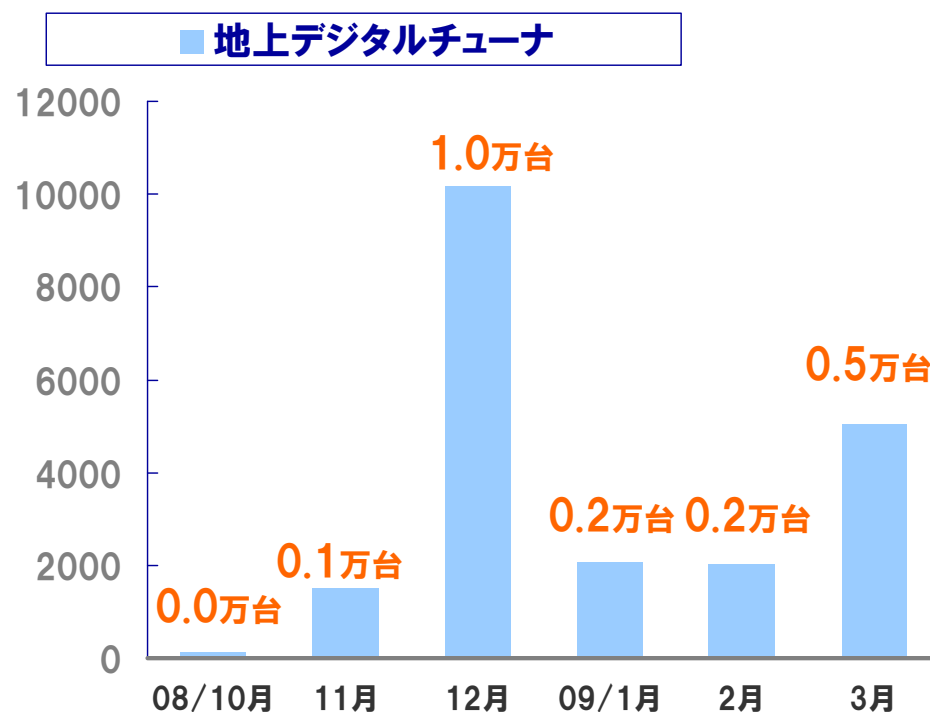


# 2009年9月期第2四半期 デジタルAV家電市場 当社出荷台数の推移

## 当社テレビ関連製品の出荷推移



## 地上デジタルチューナの出荷推移



→ 液晶テレビは事業者向けに月間千台前後を継続的に供給。

↗ 国内大手家電メーカー向けに3波対応TV受信ボードの出荷開始。他社採用に向け営業展開中。

↗ 新製品の地デジチューナは大手小売業者に納入予定。低価格・高品質を武器に販路を広げ、幅広く拡販する。



# 2009年9月期第2四半期 デジタルAV家電市場 地上デジタル放送受信機の普及状況とターゲット市場

## ◆受信機の普及状況について

TVの総数  
約1億2,000万台

4月末時点普及台数・・・約5,000万台  
アナログTVの潜在数・・・約7,000万台

<09.5JEITA発表情報>

普及済み  
デジタル  
5,000万台

未置換え  
アナログ  
7,000万台

停波までに受信機1億台の普及を目標  
→5000万台の需要発生

消費者はTV又はチューナーを購入へ

1世帯当たりの平均所有台数2.4台  
一般的に1台目は大型のTVを購入し、  
2台目以降は中・小型の購入が多い

1台目

大手メーカーの大型TV

2台目～

低価格・高品質TV  
又は  
安価なチューナー単体購入



当社は2台目以降及び単身者用の需要獲得を目指してまいります



# 2009年9月期第2四半期 デジタルAV家電市場 需要獲得に向けた取り組み

## ◆製品群別事業展開・・・中小型TV、地上デジタルチューナー等

<09年6月1日 プレスリリース>

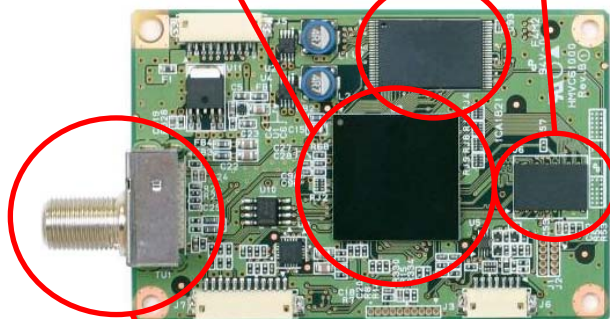
地上デジタル放送受信モジュール

◆本製品の構成・・・主要部材は3つのみ

ソフトウェアによる  
機能の差別化

①制御チップ

③メモリ



②地上デジタルチューナー

チューナーへ組み込み

<地上デジタルチューナー>



AV家電全般に展開

<中小型液晶TV>



DVDプレイヤー

フォトプレイヤー

お風呂TV

etc. . .

大量購入による圧倒的な  
価格競争力の向上

販 路 展 開

地デジ受信機  
普及支援団体

一般流通

総合小売店

CATV  
事業者

BtoB

OEM





# 2009年9月期第2四半期 デジタルAV家電市場 需要獲得に向けた取り組み

## ◆製品群別事業展開・・・高付加価値のデジタルTV向け受信ボード

### ◆大手メーカー向け 3波放送対応受信ボード



大口取引の開始で  
原価低減効果

次世代3波  
組込みボード

※現在開発中

ハードウェア・ソフト  
ウェアによる付加  
価値の追加

販路展開

一般流通

総合小売店

BtoB

OEM

PB製品  
TVメーカーへ  
他

TVメーカーへ

### ◆地上デジタル放送受信モジュールとの相違点

①BS・110度CS放送対応

②データ放送対応

③高性能CPU搭載

地上デジタル関連製品を第2の柱に育て、早期の黒字化を目指す





PIXELA CORPORATION

# 第2四半期決算概要

通期業績の見通し

製品群別の事業環境と戦略

今後の事業展望

会社の概要



# 2009年9月期第2四半期 今後の事業展望 技術情報(法人向け)ページを新設

## 《既存のウェブサイトイメージ》



### 課題

1. リテールビジネス向けに構築したサイト構成となっていた
2. ピクセラの技術力をPRするコンテンツが乏しかった

### 方針

法人向け販売促進の強化による売上高の獲得

## 目標 コンバージョン率※の大幅な増加

※ [conversion] Webサイトへの訪問者のうち、実際に何かの申し込み(会員登録・資料請求・商品の注文等)をおこなった人の割合

### ■具体的施策

#### 《機能》

- ・トップページからの適切なカテゴライズ
- ・ユーザ目的ページへの導線の確保
- ・問合せ環境の整備
- ・定期的な解析、効果測定

#### 《見せ方》

- ・技術を訴求
- ・ユーザビリティの確立

「機能」と「見せ方」の棲み分けによる相互補完

## 《追加新設後のウェブサイトイメージ》



# 2009年9月期第2四半期 今後の事業展望 地上デジタル放送関連の事業展開について

## ◆新たな販路の獲得

家電量販店→小売業へ展開

大手総合小売事業者であるイオンにて弊社製品取り扱い開始予定

## ◆総務省・地上デジタル放送受信機支援事業について

- ・2011年のアナログ放送停波を控え、経済的に受信機の購入が困難な約260万世帯に対し、簡易なチューナーの配布を決定  
→当社では普及支援事業者に対し製品を供給すべく、アプローチ中。

## ◆組み込み受信ボードの展開について

<3波対応受信ボード>



大手メーカーの中型テレビに採用。品質と採用実績で強み。

<1波受信小型ボード>



機能を絞り、低コスト・低消費電力・小型化を実現。中・小型TVとチューナーへ展開予定。

簡易～高性能なボードを幅広く展開し、地上デジタル放送受信機の普及に向けて貢献して参ります。

# 2009年9月期第2四半期 今後の事業展望

## 「見る」「録る」時代から、新たなデジタルネットワークの時代へ

「見る」「録る」だけの時代は終焉



《現在》

パソコンでデジタルテレビを録る



DTCP-IP配信クライアントアプリ  
DLNA対応家電との連携  
TV視聴アプリの機能追加  
・タッチパネル対応UI  
・エージェント機能、Etc...

ソフトウェアソリューション

SIM対応USB接続受信機  
・手軽なサーバー&クライアント  
多チャンネル録画サーバー  
・あらゆるコンテンツのユーザーへの提案



ハードウェアソリューション

《未来》

ピクセラは、新たなデジタルネットワークライフを発信していきます





PIXELA CORPORATION

# 第2四半期決算概要

通期業績の見通し

製品群別の事業環境と戦略

今後の事業展望

会社の概要



# 2009年9月期第2四半期末現在 会社の概要

商号 **株式会社ピクセラ**  
(英文:PIXELA CORPORATION)

設立 **1982年 6月**  
拠点 **大阪本社、東京支社**

資本金 **2,562百万円**  
従業員数 **197人(単体)**  
主要製品 **PC用TVキャプチャー関連製品**  
**デジタルAV家電関連製品**  
**半導体チップ**  
**モバイル関連製品**

取引先 **PC、電機メーカー等**  
関係会社 **連結子会社2社**

**貝賽萊(上海)多媒体信息技术有限公司**

(議決権所有割合100%、平成21年8月末清算完了予定)

**株式会社ピアレックス・テクノロジーズ(議決権所有割合69.5%)**

**持分法適用会社1社**

**株式会社 RfStream (議決権所有割合33.9%)**



## 資料取扱上のご注意

- 本資料に記載されております当社の将来の業績に関わる見通しにつきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社が独自に予測したものであり、リスクや不確定な要素を含んでおります。従いまして、見通しの達成を保証するものではありません。
- 当社の内部要因や、当社を取り巻く事業環境の変化等の外部要因が直接または間接的に当社の業績に影響を与え、本資料に記載した見通しが変わる可能性があることをご承知おき願います。

*<http://www.pixela.co.jp/>*

